

みうら学・海洋教育ネットワーク通信 NO.13

令和7年12月8日

旭小学校と岬陽小学校の海洋教育オンライン交流!

11月14日（金）に貝殻のことについて学習している旭小学校3年生と、海の生き物について学習している岬陽小学校の4年生がオンライン交流を行いました。

旭小学校は、取り組んできた「貝殻コレクション」を代表3名の児童が見せたり、形や色が素敵な貝殻を見せたりしました。

また、岬陽小の児童は学校の近くの宮川湾で捕まえたカニを実際に水槽から取り出して、オンラインを通じて旭小の児童に見せました。

オンライン交流の後、旭小の振り返りの中では、やはり「楽しかった！」との声が多く聞かれ、とてもよい経験になったようです。互いに貝殻を送り合うという話題も出たとのことで、今後の交流も楽しみです♪

☆旭小学校の3年生児童のふりかえりです☆

こうよう小の人たちと話して、すごく楽しくて、またいつかやりたいし、自分たちも生き物とかをつかまえて、こうよう小の人たちみたいにしたい。また貝とか生き物を見せ合って、友だちをつくって、できたら今度、げんじつで会っていっしょに何かつかまえたい。

こうよう小はカニを30匹もつかまえてかっていてすごいと思った。そのほかにも、魚などをかっていてたいへんだなと思った。貝がら交かんとかできそうと言われて、してみようかなと思いました。貝がらのコレクションを見せるとき、ドキドキしたけど、貝がらを知ってもらえてうれしかった。



みうら学・海洋教育ネットワーク通信 NO.12

令和7年11月27日

海洋教育写真コンテスト入賞作品の紹介⑧

優秀賞 初声中学校 1年 山田 咲耶子 さん 「城ヶ島の断層」



【ひとこと】

他の断層とは違い、断層がハッキリしているところ。

【講評】

我が三浦市の自慢の一つ、地層の聖地、城ヶ島のハッキリとした断層を撮影した一枚です。この美しさと荒々しさの共存は、地球の歴史が育んでくれたものですね。

海洋教育写真コンテスト入賞作品のタブレット端末の壁紙設定について

今年度より、タブレット端末の壁紙に入賞作品を順次掲載していくことにいたしました。以下のような計画で進めていきますので、児童・生徒にもご共有ください。

R7~8 海洋教育写真コンテスト入賞作品 Chromebook 壁紙計画

※学校、学年は令和7年度のものです。

	掲載期間		名前	学校	学年	題名	賞	
1	12月1日	～	12月12日	川西 陸月	名向小学校	6	海底のロープ	最優秀賞
2	12月15日	～	1月9日	土山 結愛	三崎小学校	4	夜光虫	最優秀賞
3	1月13日	～	1月23日	山垣 凜夏	三崎中学校	1	海の中のネオンカラー	東京大学三崎臨海実験所特別賞
4	1月26日	～	2月6日	関口 紗	南下浦中学校	3	潮溜まりに映る夕焼け	櫻井正則の会特別賞
5	2月9日	～	2月20日	青木 崇真	初声中学校	3	無形文化遺産、精靈流し	優秀賞
6	2月24日	～	3月6日	上郷 唯花	初声中学校	3	きれいな危険	優秀賞
7	3月9日	～	3月19日	山田 紗夢	三崎小学校	5	海そうどろぼう（ガンガゼ）	優秀賞
8	3月23日	～	4月17日	鈴木 紗渚	三崎小学校	1	うみからみたつるぎさきとうだい	優秀賞
9	4月20日	～	5月8日	高橋 光璃	岬陽小学校	1	海の森	優秀賞
10	5月11日	～	5月22日	鈴木 來愛	南下浦小学校	5	ぼくらの試練	優秀賞
11	5月25日	～	6月5日	松竹 凜士	上宮田小学校	6	三崎港にうかぶ灯ろう	優秀賞
12	6月8日	～	6月19日	渡邊 菜羽	上宮田小学校	3	ラムネに入ってた小さなのち	優秀賞
13	6月22日	～	7月3日	河野 いろは	旭小学校	4	朝陽のオレンジ空、三浦海岸	優秀賞
14	7月6日	～	7月17日	柳生 倫那	旭小学校	3	海のルビーみつけた！！	優秀賞
15	8月31日	～	9月11日	池田 優翔	初声小学校	6	朝日とカニ	優秀賞
16	9月14日	～	9月25日	山田 結月	初声小学校	6	貝がらの中に入ったカニ	優秀賞
17	9月28日	～	10月9日	草間 芽衣	初声小学校	4	初めてのつりざお	優秀賞
18	10月13日	～	10月23日	石渡 希彩	南下浦中学校	2	海辺の絵画	優秀賞
19	10月26日	～	11月6日	七五三木 結奈	初声中学校	2	衛る人たちがいる	優秀賞
20	11月9日	～	11月20日	山田 咲耶子	初声中学校	1	城ヶ島の断層	優秀賞

みうら学・海洋教育ネットワーク通信 NO.11

令和7年11月27日

海洋教育写真コンテスト入賞作品の紹介⑦

優秀賞 初声中学校 3年 青木 崇真 さん 「無形文化遺産、精霊流し」



【ひとこと】

この精霊流しは、江戸時代から三戸に伝わる伝統行事で、生徒っ子小学1年生～中学3年生が関わる団体でつくられています。

【講評】

船を引く子どもたちの、地元の伝統行事を引き継ぐ思いの強さが感じられる一枚です。見る人に感動を与えてくれます。思いは時を超え、繋がり続けるのですね。

優秀賞 初声中学校 3年 上郷 唯花 さん 「きれいな危険」



【ひとこと】

普段あまり見ることがないからめずらしいし、すごくきれいだなと思ったので撮りました。

【講評】

「きれいなものには毒がある」という言葉の通り、カツオノエボシは美しくも非常に強い毒を持っています。それでもカツオノエボシを住処に使う魚や、エサにするウミウシなども知られています。体のつくりも面白く、三崎臨海実験所でも研究を行っています。

優秀賞 初声中学校 2年 七五三木 結奈 さん 「衛る人たちがいる」



【ひとこと】

私たちが安心して暮らせるのは、たくさんの人々に守られているからだということを忘れてはいけないと思いました。

【講評】

海の生き物ではなく、海を衛る人々に目を向けているところが、一味も二味も違いますね。手前の荒波が、海上警察の強さ、たくましさを強調しているかのようです。

みうら学・海洋教育ネットワーク通信 NO.10

令和7年11月27日

海洋教育写真コンテスト入賞作品の紹介⑥

優秀賞 初声小学校 6年 山田 結月 さん 「貝がらの中に入ったカニ」



【ひとこと】

このカニを見つけた時に、浅い海に落ちていたひらいた貝がらを持ち上げた時に、中にはいっていました。

【講評】

貝殻の中に入っているのは、スペスマンジュウガニというカニです。なぜ中に入っているのでしょうか？隠れているのか、休憩中なのか？動きを眺めてみると、面白いことがわかるかもしれません。

優秀賞 初声小学校 4年 草間 芽衣 さん 「初めてのつりざお」



【ひとこと】

さいしょにお母さんにつりのこつをおしえてもらって二ひきつれました。左は8.5cm、右は6.7cmでした。妹とくらべたらわたしがつったほうが大きかったです。つりは初めてで楽しかったです。

【講評】

初めての釣り体験でいきなり2匹ゲットできたのは素晴らしいです！撮影者の記念すべき釣り名人への第一歩を祝すかのような一枚です。いったい、どんなコツをお母さんに教えてもらったのでしょうか？これからも安全に気を付けて、釣りを楽しんでください。

優秀賞 南下浦中学校 2年 石渡 希彩 さん 「海辺の絵画」



【ひとこと】

気に入っているところは、海がまるで1枚の絵画のように見えるところ。

【講評】

奥に映る sup をする人がこの絵画の主人公でしょうか。石の額縁が二重になっているので、奥行きも感じさせてくれます。三浦の新フォトスポットでしょうか！？

みうら学・海洋教育ネットワーク通信 NO.9

令和7年11月25日

海洋教育写真コンテスト入賞作品の紹介⑤

優秀賞 旭小学校 4年 河野 いろは さん 「朝陽のオレンジ空、三浦海岸」



【ひとこと】

おくにみえる、久里浜や、千葉がみえて、気に入っています。

【講評】

朝の陽の光と海の波。ここから感じられる音や光が、見る者に様々なことを感じさせてくれます。「これから新しい1日が始まるぞ!」という希望が見える気がします。

優秀賞 旭小学校 3年 柳生 倫那 さん 「海のルビーみつけた!!」



【ひとこと】

テレビでしか見たことがなかった「ウメボシイソギンチャク」。こんなに赤いんだな、いっぱいいてすごいなとおどろきました。

【講評】

テレビで見た物を実際に見つけられた時の撮影者の驚きと喜びが感じ取れる作品です。その感動が、「海のルビー」という表現に現れているように感じます。実物は海水でぬれてつやつやしていて、さらに宝石のように見えますよね。

優秀賞 初声小学校 6年 池田 優翔 さん 「朝日とカニ」



【ひとこと】

朝早く起きて朝日を三浦海岸へ見に行ったら海藻に隠れているカニがいました。可愛かったので撮りました。

【講評】

砂浜に住む生き物の中でも、特に動きが素早いスナガニを捉えた撮影者の腕に脱帽です。スナガニは夜行性の生き物なので、朝日が差し込む時間帯しか出会えない貴重な光景だと思います。

みうら学・海洋教育ネットワーク通信 NO.8

令和7年11月25日

海洋教育写真コンテスト入賞作品の紹介④

優秀賞 南下浦小学校 5年 鈴木 來愛 さん 「ぼくらの試練」



【ひとこと】

荒波にもまれたり天敵からにげたり、生きるために必死で住む場所・エサをさがし歩いている。その中で生きてる2匹は助け合うだろう。

【講評】

この2匹の関係性はわかりませんが、写真で切り取った一瞬から様々な想像が膨らむ素敵な作品だと思います。後ろの岩に空いた穴は貝の仲間が空けたものですが、この背景も試練をかいくぐろうとする雰囲気を際立たせていると思います。

優秀賞 上宮田小学校 6年 松竹 凜士 さん 「三崎港にうかぶ灯ろう」



【ひとこと】

船から流される灯ろうがきれいでした。

【講評】

暗闇に浮かび上がる船と灯ろうの灯り、そして奥の青白いネオン。それぞれの光がよく映えていて、心も温まります。ご先祖様たちは、この光をたどって三崎港に戻ってきたのかもしれませんね。

優秀賞 上宮田小学校 3年 渡邊 菜羽 さん 「ラムネに入ってた小さないのち」



【ひとこと】

人がすてたラムネの中にフグが入って出れなくなってた。

【講評】

海の環境を守る大切さを発信してくれるような、貴重な一枚だと思います。人が捨てたゴミが生き物の命を奪うことがないように、私たち一人一人ができることから取り組むことが大切だと思います。

みうら学・海洋教育ネットワーク通信 NO.7

令和7年11月25日

海洋教育写真コンテスト入賞作品の紹介③

優秀賞 三崎小学校 5年 山田 紘夢 さん 「海そうどろぼう(ガンガゼ)」



【ひとこと】

海に泳ぎに行ったら見つけました。

普通のウニよりトゲが長くて少し、怖かったです。

【講評】

写真全体に、ウニの仲間らしい長い針が広がっていて上手な写真だと思います。ガンガゼも撮影者もお互いに驚いた瞬間だったのではないかでしょうか。ガンガゼの棘には身を守る強い毒があるので、海で出会っても気を付けてくださいね。

優秀賞 三崎小学校 1年 鈴木 純渚 さん 「うみからみたつるぎさきとうだい」



【ひとこと】

はじめてパパのふねでおきにでてたのしかった
ちいさいさかながたくさんいた。

【講評】

船に乗り、海側から見た風景はいつものものとは違って見えたことでしょう。
大きくはないけれど、凛として立つ剣崎灯台。強さと歴史を感じさせますね。

優秀賞 岬陽小学校 1年 高橋 光璃 さん 「海の森」



【ひとこと】

保護者の方と、ダイビングを経験し、海の中で撮影しました。

【講評】

この木は、アオリイカの産卵場所として毎年用意されているものです。本来は地上で生きる植物ですが、海の中でも新たな命を紡ぐ役目を果たしてくれます。陸と海を繋ぐストーリーが感じられる作品だと思います。

みうら学・海洋教育に関するお問い合わせは、学校教育課まで 046-882-1111（内線404）

みうら学・海洋教育ネットワーク通信 NO.6

令和7年11月20日

海洋教育写真コンテスト入賞作品の紹介②

東京大学三崎臨海実験所特別賞

三崎中学校 1年 山垣 凜夏 さん 「海の中のネオンカラー」



【ひとこと】

ヒラヒラと葉っぱが舞うように泳ぐ、ネオングリーンのコノハミドリガイ。着地した場所がネオンピンクの海藻の上でした。色のバランスがとても美しく気に入りました。

【講評】

黄緑色のコノハミドリガイと、ネオンピンクの石灰藻という海藻の仲間に降り立った様子を捉えた写真で、コントラストが美しいです。撮影者が見た泳ぐ様子はけっこう珍しいと思います。海の生き物には、人目に触れづらいが色鮮やかなものも多くいて、海の神秘さと魅力も存分に伝わってくる作品です。

櫻井正則の会特別賞 南下浦中学校 3年 関口 紗 さん 「潮溜まりに映る夕焼け」



【ひとこと】

綺麗な夕焼けが撮りたくて何度も訪れて撮れた一枚です。

【講評】

美しい夕焼けに照らされた空と雲、そして海。海の中には貝がらも…。全てが合わさった瞬間を待ち望み、それを捉えた時の撮影者の喜びは、どれほどのものだったのでしょうか。

みうら学・海洋教育ネットワーク通信 NO.5

令和7年11月20日

海洋教育写真コンテスト入賞作品の紹介①

最優秀賞 名向小学校 6年 川西 陸月 さん 「海底のロープ」



【ひとこと】

今年は15回も海に行きました。

ナガミルが長いロープのように集まつていてゾクッとした。

【講評】

ナガミルという海藻が、ロープのように見えるという自然の不思議をうまくとらえた作品ですね。これが絡まつたら浮いてこられないのではないか、という恐ろしさを感じますが、ナガミルはカニやウミウシなどの生き物にとって大切な住処にもなります。

最優秀賞 三崎小学校 4年 土山 結愛 さん 「夜光虫」



【ひとこと】

きれいな、夜光虫が、見れた

【講評】

夜光虫が集まつてきれいに光る様子を撮影できる時は、ねらっていてもなかなかありません。その瞬間を捉えた撮影者はお見事です。夜のうらりの灯りとの対比が、互いをより一層際立たせていますね。

みうら学・海洋教育ネットワーク通信 NO.4

令和7年11月4日

「自分らしく人生を生きる

～地域の素敵な大人たちから学ぶ～」講演会

三崎中学校にて、タイトルの素敵なおの方々をお招きした生徒向けの講演会が行われました。講師は、三浦にゆかりのある熱い思いをもった方々ばかりです。数多くの講師の中から、今回は以下の3名についてご紹介します。



高橋真樹子さん

オーストラリアへの留学で、趣味であったダイビングのインストラクターについての知識と言語を学び、現在は三浦で活躍している。三浦の海は四季を感じることができ、都会からのアクセスも良く、自然が体験できる場所としてすごく適している素敵なお場所であると感じている。

生徒感想：「海のことでのんなに必死になれるの素敵です！温暖化などの深刻さも伝わってきたり、何より海をこよなく、愛している！」

山田玄太さん

三崎中学校出身。三崎下町で50年続く料理屋「くろば亭」の3代目として腕を振るっている。仕入れからお客様の口に入る提供までして三浦市の魅力をお店を通して伝えていきたいという経営理念で働いている。働き方や食材への「こだわり」が特に強く、魚屋を通さずに市場に直接行き、自分の目・感覚・において仕入れを行っている。

生徒感想：「玄太さんの包丁さばきに感動しました。私は捌けないですけど、お客様の接客はいけます。中学卒業したらバイトしに行きます！」



山田博さん

南下浦中学校（三崎小学校）出身。日本さかな専門学校の講師として釣りや飼育、水産業など実践的で魅力あふれる授業を行っている。幼いころから三浦の海は身近な存在であり、現在も休日は生物採集に没頭している。さかな専門学校の学生にも「三浦が第2のふるさとになってほしい」と話している。

生徒感想：「『10年後に社会人になった学生と魚について語り合う』。とても素晴らしい目標を持っていてすごいなと思いました。」

みうら学・海洋教育に関するお問い合わせは、学校教育課まで

046-882-1111（内線404）

みうら学・海洋教育ネットワーク通信 NO.3

令和7年9月4日

まぐろ経済学・環境学 vol 1.0

夏休みも終盤にさしかかった8月 20 日(水)に逗子・三浦・葉山合同夏季初任者研修の1日目が行われました。午前中に講義・演習があった後、うらり周辺にてそれぞれ昼食を食べ、午後は城ヶ島に移動しました。



城ヶ島の恵水産の石橋匡光社

長にはもう5年連続でお世話になっていますが、毎年アップデートされたお話を聞かせていただくことができます。今回のお話のタイトルは「まぐ

ろ経済学・環境学 vol 1.0」です。まぐろを中心に世界の環境や社会問題を考えていくことを指します。

マグロ絶滅危機ランクの引き下げ、温暖化の影響とみられる漁獲地の変化、50年先のまぐろと私たちの未来を見据えた様々な取組などについてご講義いただきました。

大変勉強になるお話でしたが、中でも印象に残っているのが、「教科書などでは日本の第一次産業は衰退傾向にあると教えられ、メディアも注目されるからとネガティブな内容中心に報道しているが、必ずしもそうではない。しかし、その情報を受け取った今の子どもたちは、おそらく第一次産業に就こうとしなくなってしまう…。」といったものでした。実際、世界基準で見ればまぐろの消費量は高まっており、英語が話せる寿司職人になれば、大儲けができる可能性が高いとのことです。

視野を狭めることなく、広く新しい情報をつかんで教育にあたりたいものです。

みうら学・海洋教育ネットワーク通信 NO.2

令和7年8月 28 日

宮川湾で Feel 度 Walk!

よく晴れた6月 12 日(木)、岬陽小学校の4年生が宮川湾での校外学習(「Feel 度 Walk」)を行いました。

授業の前半は磯の生き物だけでなく、落ちているものや景色にも目を向けて、気に入ったものを探しました。そして授業の後半では、対象の生き物や拾ったものをおんぴつでスケッチしていました。学校に戻ってからではなく、見付けた感動そのままにすぐに描き出すことで、より生き生きとした作品を作ることができました。

生き物の紹介や注意点の説明役として学校教育課の担当者も同行し、子どもたちは興味深く話を聞いていました。



また、保護者の方々にも参加を呼びかけ、学習の様子を

見ていただくとともに、安全への配慮もお願いすることができました。

子どもたちは時間いっぱいいろいろなものを発見し、沢山歩き回り、充実した時間を過ごすことができました。



みうら学・海洋教育に関する
お問い合わせは、学校教育課まで
046-882-1111 (内線404)

みうら学・海洋教育ネットワーク通信 NO.1

令和7年6月 30 日

統合後初！ 南下浦小学校 全校 砂工作

5月23日（金）、南下浦小学校の全学年の子どもたちが、統合後初の全校砂工作を行いました。昨年度に比べ約40名の児童が増えたことで、6グループだった縦割り班を今年度は8グループで編成し、A～H 各グループ仲良く元気に協力して、楽しみながら砂工作に取り組み、素敵な作品を創り上げました。

郷土みうらの豊かな自然に親しむとともに、仲間とつくる楽しさを味わったり、異学年の子との交流を深めたりすることもできました。



A グループ えななみくんとサンドマン



B グループ ペンギン



C グループ Sea シャーク



D グループ シロイルカ



E グループ クリオネ



F グループ ジンベイザメ



G グループ クラゲとヤドカリ



H グループ シャチ

みうら学・海洋教育に関する
お問い合わせは、学校教育課まで
046-882-1111（内線404）